

街への想い、未来への願いを、 みんなで一歩ずつカタチに

前号でもご紹介したように、東京・日本橋では、EMを活用した清掃活動や、橋の下を流れる日本橋川の水質浄化プロジェクトが進行中です。

今回は活動の中心である「名橋『日本橋』保存会」事務局長・永森昭紀さんを訪ね、会の歴史、地域での手ごたえや、今後のビジョンなどについて語っていただきました。

高速道路に埋もれた日本橋とよんだ川を何とかしたい!

江戸時代から400余年の歴史を誇り、重要文化財にも指定されている日本橋。この橋を守ろうという声を持ち上がり、「名橋『日本橋』保存会」が発足したのは、1968年(昭和43年)のことでした。

「東京オリンピックを契機に作られた高速道路が、なんと日本橋の上を覆ってしまったんです。その頃、都心の斜陽化が叫ばれていたこともあり、危機感を持った地元の人々が集まってきたのがこの保存会です。当初は埋もれてしまった日本橋をなるべくいい形で後世に残そうということで、橋の清掃や橋詰の整備などを中心に活動していました。しかし、1983

年(昭和58年)に将来必要であろう大規模な改修工事に合わせ、高速道路の移転移設を関係機関へお願いする事とし、その為、全国の皆様に応援して頂けるよう日本橋の活動を盛り上げてきました。」

こうして、保存会では記念イベントの開催や、箱根駅伝の復路ルートへの誘致などを積極的に展開。1971年(昭和46年)から恒例行事として継続している「日本橋 橋洗い」イベントにて、2005年(平成17年)からEMシャボン玉せっけんが採用されたことがきっかけで、EMによる日本橋川水質浄化プロジェクトへと発展していったのです。

まず行動し実感することが 継続的な活動の秘訣

「環境にやさしい橋洗い用の洗剤を探していたら、EMシャボン玉せっけんがいいという評判を聞きましてね。それなら川に流してもきれいになるのかな?と調べてみたらEMの活性液が浄化に役立つということを知ったんです。EMのことは当初、地元もあまりよく知らなかったのですが、川をきれいにすることは、みんな大賛成ですからね。私が実際に足を運んで見えた三重県四日市市の阿瀬知川の成功例などを紹介したところ、『よしやろう!』ということになりました。現在は地元のリョウタークラブ4団体や日本橋法人会なども地域貢献の一環として参加し、日本橋川上流にEM活性液製造プラントを設置、EM団子の提供などでもご協力をいただいています。」

永森さん自身、40年近く地域の人々とともに力を合わせ、みんなで培ってきた日本橋、そして川や街への思い。それは、今、一歩ずつ形になりつつあります。

「以前は全く生き物もいなかったへドロの川に、徐々に虫、魚、鳥が戻ってきています。やはりこうした活動は、誰かにやってもらうのではなく、自分たちが実際に行動し、実感することが大事だと思えましたね。地域の人々の継続的な取り組みで少しずつでも、確実に変わっていくことは、行政をも動かす力になると思います。」

街づくりとは、 長い目で見た人づくり

「今、懸念しているのは大雨が降ると、汚水が流れ込む地点が今も30か所くらいあること。今後は国や都に働きかけ、川沿いの大規模再開発プロジェクトを行う際には、こうした場所に受水槽を設けたり、護岸をコンクリートから石積みに変えてもらうことなどを、提案していきたいですね。『街づくりとは』とよく聞かれますが、私は『人づくり』だと思っております。みんなが、未来像を語り考えながら、活動を自分の代、そして次の代へと引き継いでいく。これからのいろいろな人がいろんな形で参加できる機会を設けていきたいですね。」

来年には日本橋のそばに船着き場を作り、川に親しめる環境を整備するプランも進行中とか。未来の素晴らしい日本橋に向けて、現代の「町衆」たちは元気に活動を続けていきます。



建築文化的にも価値の高い石橋ながら、上を高速道路に覆われてしまっている日本橋と日本橋川。



これまで投入されたEM団子は、なんと**186,900個!!**

土や泥にEMを練りこんで発酵・乾燥させた団子を投入すると、へドロが徐々に分解・砂地化され、自然本来の自浄作用や生態系の循環を促進させます。



去る4月5日に行われた架橋98周年記念・春の名橋「日本橋」まつりでも、多くの人々がEM団子の投入に参加。



春の名橋「日本橋」まつりでは、中央区長や駐日オランダ大使を招き、日蘭通商400年記念セレモニーも併せて実施。また、日本橋老舗の名品の販売コーナーもあり、大いににぎわいました。



日本橋を代表する老舗デパート・三越に勤務しながら、地域の人々とのきずなを深め、保存会の活動にも精力的に取り組んでいる永森さん。

EM導入後の活動と成果



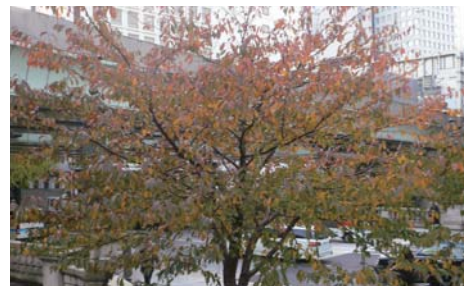
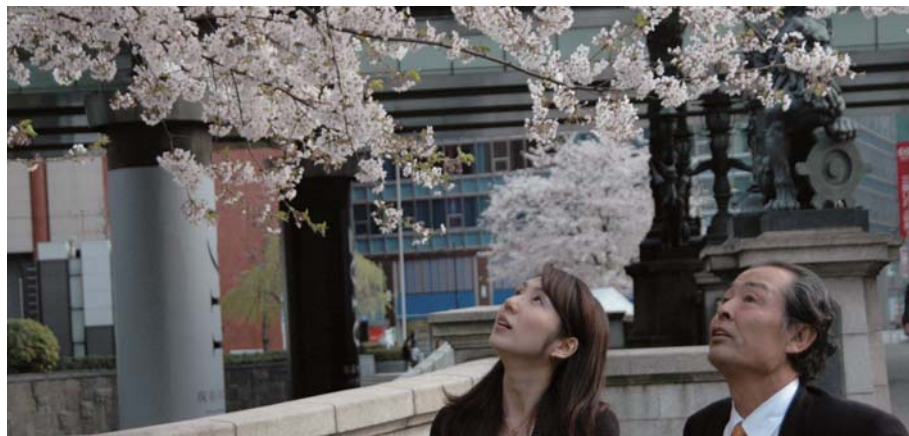
2005年(平成17年)7月
橋洗いイベントでEMシャボン玉せっけんの使用を開始。EM団子を3000個投入する。
※以降、地域の共催団体、大阪市漁業協同組合などの応援により継続的にEM団子を投入。

2006年(平成18年)12月
日本橋川上流(千代田区神田)にEM活性液培養プラントが完成。週10トンの放流を開始。この時点の環境調査では川の中の生物はゼロ。

2007年(平成19年)
川のニオイがなくなったという声が聞かれ始め、4月の調査ではゴカイやイトミミズなどを確認。

2007年(平成19年)10月
投網でスズキ、コイなどを捕獲。翌月の魚釣り大会ではハゼも釣れるように。魚をねらう鳥たちも水面に飛来し始める。

■EM活性液投入量	
①堀留橋のプラントから活性液	1,154t
②外濠公園から活性液	86t
【合計 1,240t】	
■EM団子投入量	
①牛込濠に団子投入	67,400個
②日本橋川(上流)へブリッジキャラバン	53,000個
③日本橋川(下流)へ団子投入(名橋「日本橋」保存会)	66,500個
【合計 186,900個】	
※平成21年5月現在 ※日本橋川のみ投入団子累計 119,500個	



橋のたもとの桜も、EMですくすく成長!
写真上:昨年11月29日の撮影時点で、対岸の桜はすでに落葉しているのに比べ、EMの葉面散布を行っている桜は12月過ぎまで葉がしっかりついていました。写真左:そして今年も見事に満開となった桜。見上げる永森さんと事務局の福島深雪さんも感慨深げです。(2009年4月5日撮影)